

「モノ」語る



2014年度

巡回展



いいたてミュージアム

までの未来へ記憶と物語プロジェクト

いいたてミュージアムとは、飯館村のこと、飯館村に起こったことを県内外に広く発信し、未来の世代へも伝えていこうというプロジェクトです。

村民のみなさんのお宅へお伺いし、みなさんにとっての「古いモノ」「大事なモノ」「歴史的なモノ」を見せていただき、それにまつわるお話を集めてきました。「モノ」にまつわるお話から見えてきたのは震災前の豊かな村の姿でした。

本展覧会を通し、ご覧いただくみなさまに、「モノ」が語る力から、村の姿をお伝えできればと思います。

OPEN 8.00-20.30

入館無料

1月

土

日

月

火

水

24

25

26

27

28

京都造形芸術大学 瓜生館 1F

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

会場までの地図は裏面にあります

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、いいたてまでの会 協力：京都造形芸術大学 文明哲学研究所

平成 26 年度文化庁地域と共創した美術館・歴史博物館創造活動支援事業 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2014 飯館村の歴史・暮らしの記録プロジェクト



福島県相馬郡

飯舘村

飯舘村は、福島県阿武隈山系北部の高原に開けた豊かな自然に恵まれた美しい村です。

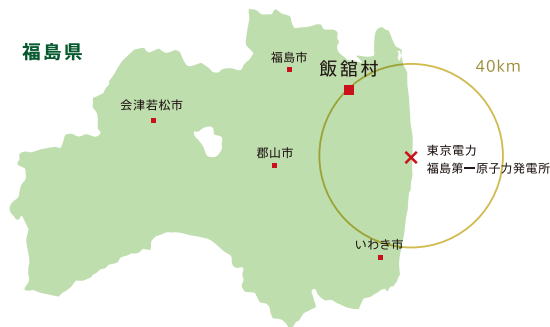
総面積230.13キロ平方メートルの約75%を山林が占めた地形は比較的なだらかで、北に真野川、中央に新田川と飯樋川、南部に比曾川が流れその流域に耕地が開かれ集落を形成しています。

年平均気温は約10度、年間降水量1,300mm前後で高原地帯独特の冷涼な気候にあります。

2010年10月には「日本でもっとも美しい村」連合への加盟を果たしました。



2014.5.20 飯舘村 手前の田んぼは草が生い茂っている



地理：東京駅から福島駅まで、新幹線で約1時間半、距離270kmほど
福島駅から飯舘村まで車で一時間の位置

東日本大震災

2011年3月11日、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウンによる放射能飛散の被害により、事故から1カ月あまりを経た4月22日、懸命に被災者を受け入れていた飯舘村は、突然、計画的避難区域に指定され、5月末には全村避難に至りました。放射線量の高さゆえに6,000人あまりの村民は、丁寧に誠実に暮らしを紡いできた美しい村からの避難を余儀なくされたのです。

2014年の村民の避難状況

2014年10月1日現在、6,697人の村民のうち、県内避難者数6,156人、県外避難者数480人、飯舘村内居住者数59人（未避難者12人を含む）、不明者数2人。

県内9か所（福島市、伊達市、相馬市、国見町）の仮設住宅では、高齢者を中心に1,092人が生活しています。



2014 除染の様子、地表は削られている。集めた汚染土の最終処分場は決まっておらず、村内の収集場所に汚染土がぎっしりと詰め込まれている



旧明治小仮設住宅



までいと
真の手（両方揃った手）が語源。
「手間ひまを借します」「丁寧に」「心をこめて」「つましく」という意味で使われる方言

京都造形芸術大学 瓜生館 1F

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116



はま・なか・あいづ
文化連携プロジェクト

hamanakaaizu.jp

福島県は、太平洋側から南北の境界線で浜通り、中通り、会津地方に分かれ、三つの地方はそれぞれ異なった風土や文化を持っています。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、2012年度から、福島県内の団体と福島県立博物館が連携して行っているアートプロジェクトです。福島の文化を再発見し、伝えること。新たに創造すること。福島が直面する課題を共有し、みなさんと考える場を生み出すこと。そのために、2014年度は9つのプロジェクトを実施しています。

問い合わせ

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 実行委員会事務局 喜多方支局
〒966-0073 福島県喜多方市宇中町 2878 番地 NPO法人まちづくり喜多方内（担当：高橋、宮澤、馬場）
tel：0241-22-1026 fax：0241-22-5546